

# SITA

# 情報理論とその応用学会ニュースレター

- ドイツ滞在記.....和田山正(岡山県立大学)
- ISITA2000 報告.....ISITA2000 TPC co-chair 藤原融(大阪大学)
- 「代数曲線の数理と符号暗号への応用」ワークショップ報告.....鴻巣敏之(大阪電通大学)
- 「第24回情報理論とその応用シンポジウム」論文募集
- 「第4回情報論的学習理論ワークショップ(IBIS2001)」開催のご案内
- 国際会議のお知らせ
- 理事会報告
- 会員の声
- SITA ニュースレター・ホームページURL

## ドイツ滞在記

和田山正(岡山県立大学)

### はじめに

1999年4月中旬から2000年3月末までのほぼ一年間、エッセン大学(ドイツ)実験数学研究所のA.J.Han Vinck(フィンク)教授の研究室に滞在する機会を得ました。この小文は、そのときのことを振り返って書いたものです。



### 実験数学研究所

エッセンはデュッセルドルフの近くの町で、もともと石炭の産地であったため第2次世界大戦前は鉄鋼で有名な町でした。しかし、第2次世界大戦末期の空襲により古いものは焼かれてしまい、今では緑の多い新しい町に生まれ変わっています。街の南には、小さな美しい湖があります。

エッセン大学に属する実験数学研究所の構成はユニークで、純粋数学の2つのグループ、Vinck教授が率いる情報理論・暗号グループ、ネットワークグループの4つのグループからなっています。街中から少し外れた閑静な場所にあり、じっくり腰を落ちつけて研究するのに向いています。さすが石炭の町エッセンだけあって、研究所の冬場の暖房には石炭を利用しています。世の中広しといえど石炭暖房とATMスイッチが同居しているところはそうはないと思います。

研究所は、エッセン大学のメインキャンパスから2キロぐらい離れています。このため、毎日、学生さんと大学食堂(メンザ)に行くのに自転車で行きました。夏は、なんとも快適だったのですが、冬は寒さが厳しく寒中トレーニングの様相を呈していました。おかげで足はかなり鍛えられました。

### Vinck 教授

Vinck 教授は、SITA のときに何度か日本にいられているので、ご存知のかたも多いかと思います。電力線通信、畳み込み符号、同期符号、置換符号、マルチプルアクセスなど幅広い分野で精力的に研究をされています。また、オーガナイザーとしても活躍されており、最近では電力線通信関係の国際会議の立ち上げにも尽力されています。

教授は明るく気さくな方で、いつも気楽に楽しく話をさせていただくことができました。お宅に招いていただいたときには、奥様と合作のお寿司をご馳走して下さったり、すべてに渡って本当に親切にいただきました。高校生のご息子は、アマチュアチェスでオランダ内上位の強豪で(Vinck 教授はオランダの方です。毎日、オランダから国境を越えてエッセンに来られています)チェスを知らない私は、少々自信のあった将棋で挑戦したものの勝負にならず、仕方なく山崩しで再挑戦しそれでも負けてしまいま

した。

## 研究室のようす

研究室では、Vinck 教授の方針でお互いにファーストネームで呼ぶという習慣になっていました。このような習慣は、ドイツの大学では必ずしも一般的ではないようで、改まった呼び方をさせている（呼びかけに professor X, 二人称に Sie を使う）教授も多いそうです。たとえば、Ph.D ディフェンスのとき、「審査委員のあの先生は du だし、あの先生は Sie だし、混乱しそうだ」とドクターの学生さんがこぼしてました。日本語の敬語も複雑ですが、これもややこしそうです。

Vinck 教授は、学生自身に研究テーマを考えさせるという指導をされていました。しかし、放任するのではなく、週1, 2回、学生と熱の入ったディスカッションをさせています。学生の自発性を尊重し、それをサポートするという方針をとられているようです。時間はかかるが、学生が自分で問題を見つけ出してくることが重要だ、とおっしゃっていました。

私もよくドクターの学生さんと議論をしました。彼らは議論が強いですし、「俺はそうは思わない！」なんてハッキリ言います。最初は、「もうちょっとやんわり言えんか、コイツは」と思っていたのですが、慣れてくると自分が違う意見をもってるときにそりゃちがう、と簡単に言えるのは楽だと感じるようになりました。また、長幼の序の感覚が薄い（まったくないというわけではありませんが）のも年齢の違う人とディスカッションするときに議論の内容以外のことを考えなくても良くて非常に楽です。加えて、誰に対してもなぜか質問がしやすいように感じました。やはりファーストネームで呼び合ったり、「私はそうは思わない」と簡単に言える環境は、ディスカッションをするために便利なようです。

## ドイツ語

研究所では英語で事足りるためそれほど問題はないのですが（私以外の人は私の変な英語を聞かされるという問題があったと思います）、一歩外にでれば、当然ですがドイツ語の世界です。恥ずかしながら白状しますとドイツ語はぜんぜん駄目で、ドイツにきた当初は、買い物も道を開くのも一苦労でした。

学生時代には、第二外国語としてドイツ語を取っていたのですが、「でるですでむでん」などの暗号のごとき冠詞変化などに嫌気がさし、前期で投げげてしまいました。そのことを悔やみながら、少なくとも数ぐらいいは覚えてくるべきだった、文法からやり直すべきか、などといろいろ考え込んでいました。

一方、ドイツに住むからには、街で英語を使うというの

もなんだかいただけにないような気もしていました。英語だと町の人々の反応もよくありません。そりゃ、誰だって外国語で急にしゃべりかけられたらあんまり楽しくないと思います。

そこで、研究室の学生さんによく使う言い回しを教えてもらっては街で使うというような泥縄作戦で、この事態を切り抜けることにしました。たとえば、「ダーフォン ツヴァイ シュトゥック ビッテ」<sup>1</sup>（これ2個頂戴）なんていうのを教えてもらってメモしては使ってるうちに何とか生活には困らない程度にはなりました。言葉のわからない国でもなんとか暮らせるものだ実感しました。

しかし、訪問先の国の言葉ができるに越したことはありません。フラストレーションを感じることも多く、深いコミュニケーションはその国の言葉でないと難しい部分があるように感じます。

いまでも高校時代の音楽の時間に習ったシューベルトの野ばらをドイツ語原文で覚えています（そのころは意味もわからずにものを覚えられる記憶力がまだあったみたいです）。何度かホームパーティにお招きに預かったときには、なんとかのひとつ覚えでこの歌を恥ずかしげもなく披露していました。これはどこでもたいへんに喜んでいただき、コミュニケーションの点で大いに役立ったようです。

## ドイツのくらし

ドイツの街は住みよくできてますし、住みよくするための生活文化、考え方があるようです。ドイツのどこの街でも見かける光景ですが、乳母車を押している人が電車に乗り込むときにはまわりの人がすぐに手伝います。親切で、というのとちょっと違い、そうするのがごくあたりまえの行為としてなされています。また、ちょうど私がエッセンに滞在している年にも多くの市電が超低床型の市電にリプレイスされました。超低床型市電の床は本当に低く、ホームとの間に段差はほとんどありません。振動も少なく快適です。誰もが移動しやすい交通インフラとそれを支える文化があるようです。

ドイツでは、ほぼすべての店が日曜日に休むよう義務付けられているというのも、日本からきて驚くことのひとつです。日ごろ、コンビニエンスストアの便利さに慣れきっている私としては当初、なんと不便な、と思っていました。そのことを学生さんに言うと、ほとんどすべての人が休みになる日曜日は家族団欒の時間であり、恋人や友達と会うことができる貴重な日になっていると説明してくれました。

日曜日に営業したほうが消費者も便利だし、経済効果も高いのになんで営業しないんだろうと考えていた私には、そんな考え方もあるのか、と少々ショックでした<sup>2</sup>。また、知らないうちに自分が経済的モノサシを重視しているという発見もありました。違う国の人と話すのは、自分のバイアスを知るのにも有効なようです。

<sup>1</sup> ちなみにこの言い回しは結構実用的です。チーズ屋、パン屋、ハム屋などで欲しいものを指しながらお試ください。ハムなどスライスされてるものは「ツヴァイ シャイベン」、はかり売りのものは「ツヴァイ フンダート グラム」です。

<sup>2</sup> しかし、私と同じような意見のドイツ人も結構いるようで、世論は次第に日曜開店に傾いていってるようです。

## さいごに

この滞在では、自由になる時間が十分にあったため新しい分野をいくつか勉強することができました。置換符号、畳み込み符号について Vinck 教授と共同研究をすることができたのも自分の研究の幅を広げるよい経験になったと思います。

また、ドイツのクリスマス、教会建築、オペラ、ビール・ワインなどの素晴らしいものを知ることができ、研究面だけではなく、その他の面でも学ぶことが豊富にある実りある一年でした。行く前は、言葉のわからない国に行き生きていけるのか？とかなり不安だったのですが、思い切っ行って本当に正解だったようです。

最後になりましたが、行こうかどうしようか迷っていたときに背中を押してくださった京都工芸繊維大学の若杉先生、Vinck 教授にご紹介くださった電気通信大学の森田先生（森田先生の書かれた滞在記を読んだことが、留学先を決めるひとつのキッカケになりました）、一年にわたる留学を許してくださった岡山県立大学各位（特にご迷惑をかけてしまった榊原先生）、なにかとお世話になった Vinck 研究室の学生のみなさん、素敵なアパートを探してくださった秘書のカリンさん、すばらしい研究環境を提供していただき、また私の下手な英語のディスカッションに熱心にお付き合いくださった Vinck 教授に心から感謝しつつ筆をおきたいと思います。

## ISITA2000 報告

ISITA2000 TPC co-chair 藤原融（大阪大学）

2000 年の ISITA は、11 月 5 日から 8 日まで、IS-PACS2000 (2000 IEEE International Symposium on Intelligent Signal Processing and Communication Systems) と共に、ホノルルのシェラトンワイキキホテルで開催された。10 年前の 1990 年、初回の ISITA が同じホテルで開催され、10 年後は再びハワイでとの話が出ていたが、それが果たされたわけである。参加者総数は、両シンポジウム合わせて 531 名でこのうち約 300 名（うち、学生が約 1/3）が SITA に参加した。30 か国から 291 件の論文が投稿された。地域別では、アフリカ 1 件、北中米 55 件、南米 5 件、アジア 183 件、ヨーロッパ 38 件、オセアニア 9 件となっている。プログラム委員会では、各論文に 2 名ずつの査読者を割当て査読を行い、256 件が採択された。最終的

に Proceedings に掲載された論文数は 244 件となった。ハワイということもあって、予想を上回る投稿があったため、採録論文数も多くなり、パラレルセッション数を 1 つ増やして 7 とした。特別講演では、Jacob Ziv, W.W.Peterson, Osamu Yamada の 3 氏に興味深い内容のご講演をいただいた。火曜の午後は、同じく予想以上の投稿件数のため、セッションを開催している ISPACS を横目に、ISITA 参加者はワイキキビーチ、ダイヤモンドヘッドなどハワイ滞在中を楽しんだ。オプションツアーを提供しなかったが、各自それぞれ楽しめたことと思う。最後に、ローカルアレンジメント担当の Marc Fosssorier 先生をはじめとするハワイ大学の皆さん、シェラトンワイキキのスタッフに感謝する。

## 「代数曲線の数理と符号・暗号への応用」ワークショップ開催報告

鴻巣敏之（大阪電気通信大学）

代数曲線の数理と符号・暗号への応用ワークショップ（日本応用数学会「数論アルゴリズムとその応用」研究部会：JANT と共催）は、1 月 27 日（土）に東大・駒場キャンパスで開催されました。SITA 側から講演に関しては、SITA の企画において講演の公募、依頼を行ない、結果 4 件の発表がありました。また JANT 側からも 3 件の発表がありました。講演題目と講演者は、以下の通りです（前半 4 件が SITA 側の講演）。

- “index/xedni calculus が楕円曲線離散対数問題の効率解法にならない簡単な証明,” 鈴木讓（阪大）
- “高次の座を用いた代数幾何符号の構成,” 戒田高康（八代高専）

- “Quadratic Forms, Fibre Products and Some Plane Curves with Many Points,” 川北素子（旧姓：鈴木、東大）、三浦晋示（東大）
- “正規基底表現を用いた有限体上の演算について,” 原澤隆一（阪大）
- “主偏極 CM アーベル曲面の井草不変量が満たす類多項式について,” 高島克幸（三菱電機）
- “等分多項式の行列式表示の種数 2 への拡張,” 大西良博（岩手大）
- “多倍長 C 言語インタープリタ TC,” 福田隆（日大）

大雪で電車も止まる天候でしたが、50人ほどの会場を埋める参加者があり、代数曲線の数理、数論アルゴリズムというテーマをもとに講演者の熱心な講演に耳を傾けました。ワークショップがJANTと共催であったため、互いに活発な討議があり、大いに刺激を受けたと思います。また、普段あまり聞きなれないような内容の理解やその他の

情報が収集でき、この点に関しても時々このような共催のワークショップを行なうことは、有意義であるよう思われました。

本ワークショップの報告と資料を  
<http://www.math.sci.osaka-u.ac.jp/~suzuki/joint.html>  
に掲載しておりますので、御覧ください。

## 「第24回情報理論とその応用シンポジウム(SITA2001)」論文募集

下記の要領でSITA2001を開催致します。多数の方々の御参加及び論文発表をお待ちしております。なお、申込み方法、必要書類、宿泊地等の詳細については下記の事務局ホームページを御覧ください。

期 日 平成13年12月4日(火)～平成13年12月7日(金)  
(12月4日は電子情報通信学会情報理論研究会を開催予定)

会 場 神戸国際会議場(神戸市中央区港島中町6-9-1, JR三ノ宮駅からポートライナー:市民広場駅下車で10分)  
TEL: 078-302-5200 FAX: 078-302-6485  
ホームページ <http://www.exd.city.kobe.jp/kcva/>

分 野 情報理論基礎, シヤノン理論, 符号理論, 情報源符号化, 通信路符号化, データ圧縮, 符号化変調, 情報理論応用, 暗号, 情報セキュリティ, 系列, 確率過程, 画像・音声処理, 通信方式, 信号処理, 情報ネットワーク, 光通信理, スペクトル拡散通信, ニューラルネットワーク, 記録素子用の符号化・信号処理, 量子情報理論, 量子符号・暗号, その他

参加・発表申込締切 9月17日(月)

最終原稿締切 10月10日(水)

問い合わせ先 〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学工学部  
電気電子工学科 田中研究室内 SITA2001事務局  
TEL: 078-803-6095, FAX: 078-803-6095  
E-mail: [sita2001@pubs3.eedept.kobe-u.ac.jp](mailto:sita2001@pubs3.eedept.kobe-u.ac.jp)  
ホームページ: <http://www.es3.eedept.kobe-u.ac.jp/sita2001>

その他 SITA2001への参加・発表方法は、SITA2001ホームページを御覧ください。

主 催 情報理論とその応用学会

共 催 電子情報通信学会基礎・境界ソサイエティ情報通信基礎サブソサイエティ  
(IT, ISEC, SST, ITS 各研究専門委員会),  
IEEE Information Theory Society, Japan Chapter

## 「第4回情報論的学習理論ワークショップ(IBIS2001)」開催のご案内

主 催 電子情報通信学会 情報論的学習理論時限研究専門委員会

共 催 情報理論とその応用学会

協 賛 電子情報通信学会 情報理論研究専門委員会・人工知能と知識処理研究専門委員会・  
コンピューション研究専門委員会・ニューロコンピューティング研究専門委員会・  
パターン認識・メディア理解研究専門委員会, IEEE IT Japan Chapter, 情報処理学会,  
人工知能学会, 日本神経回路学会, 日本物理学会, 計測自動制御学会, システム制御情報学会,  
応用統計学会, 日本ソフトウェア科学会 データマイニング研究会(依頼中)

本ワークショップは、電子情報通信学会 情報論的学習理論時限研究専門委員会が主催するもので、情報理論、統計学、統計物理学、計算統計学、機械学習、ニューロ、応用(画像、言語、複雑系、生体系、データマイニング、金融工学 etc)などの緊密な結び付きに焦点をあてて、知識情報処理の新しい方向性を模索する、学際的なものです。

IBIS は今年で 4 回目を迎え、毎回幅広い分野から多くの参加を頂き、様々な視点から学習についての活発な意見交換が行われています。IBIS2001 もこの自由な雰囲気大切に、さらに多くの方々とのより深い意見交換が行えるよう、幅広い分野からのご参加をお待ちしています。

参加には登録が必要ですので、下記の参加申し込み方法をご参照ください。

IBIS2001 では、一般セッション、ポスターセッションのほかに、近年飛躍的に重要性が増しているデータマイニングへの統計的・情報論的アプローチを議論する「データ・テキストマイニングにおける統計的モデリングの実際」と、理論・応用の双方に興味深い問題を提供しているアンサンブル的な予測の方法論について議論する「Combining Predictors」の二つの特別セッションが予定されています。また、招待講演として

- 田崎 晴明 (学習院大)

期 日 平成 13 年 7 月 30 日 ~ 8 月 1 日

会 場 国立情報学研究所 一ツ橋記念講堂 (東京都千代田区一ツ橋 2-1-2)

URL: <http://www.nii.ac.jp/map/hitotsubashi-j.html>

参加申し込み方法 定員 200 名先着順で受け付けます。

IBIS2001 ホームページ <http://www.ieice.org/ibis-tg/ibis2001.html> から参加登録を行ってください。

問い合わせ先 IBIS2001 実行委員長 鈴木謙 (大阪大)

E-mail: [ibis-tg-general@mail.ieice.or.jp](mailto:ibis-tg-general@mail.ieice.or.jp)

プログラム (5 月 25 日暫定版)

7 月 30 日 午前

開会あいさつ

セッション 1

- レプリカ法による Gallager 符号の信頼性関数評価  
樺島祥介・佐塚直也・中村一尊 (東工大)・David Saad (Aston 大)

- 線形符号による多端子データ圧縮の統計力学  
村山立人 (東工大)

特別セッション「Combining Predictors」(1)

- [招待講演] Active Ensemble Learning  
馬見塚拓 (NEC)
- 自然言語処理におけるシステム混合法について  
松本裕治・工藤拓・高村大也・山田寛康・中川哲治 (奈良先端大)

7 月 30 日 午後

「熱力学、統計力学、そして、量子論」

- 長岡 浩司 (電通大)  
「量子系の情報幾何について」
- 山本 博資 (東大)  
「ユニバーサルデータ圧縮アルゴリズムの変遷 基礎から最新手法まで」
- 加藤直樹 (京大)  
「購買履歴からのデータマイニング」
- 馬見塚 拓 (NEC)  
「Active Ensemble Learning」

(敬称略)の 5 名の先生によるご講演を予定しています。プログラムの詳細を末尾に添付いたしました。最新の情報については IBIS2001 のホームページ

<http://www.ieice.org/ibis-tg/ibis2001.html>

をご覧ください。

なお、電子情報通信学会 和文論文誌 (D-II) において、本ワークショップと関連して、「情報論的学習理論特集 (投稿締め切り 8 月 17 日)」が企画されます。詳細は上記ホームページをご覧ください。

特別セッション「Combining Predictors」(2)

- Boosting の過学習とその回避  
小野田崇 (電力中央研究所)
- 動的計画法に基づいた最適プルーニングの導出  
瀧本英二・丸岡章 (東北大)・Volodya Vovk (London 大)
- 勾配法による混合分布の構成  
向内隆文・上田修功 (NTT)
- トランスダクティブ・ブースティングによるテキスト自動分類  
平博順 (NTT)・春野雅彦 (ATR)

セッション 2

- [招待講演] 量子系の情報幾何について  
長岡浩司 (電通大)

セッション 3

- 量子仮説検定における漸近的に最適な測定  
林正人 (理研)

- ・マルチスケールブートストラップによる領域の検定  
下平英寿 ( 統数研 )
- ・Penalized Logistic Regression Machines: New Methods for Statistical Prediction 2  
田邊國士 ( 統数研 )
- ・Image Restoration with Subspace Information Criterion — Optimizing Parameters of Linear Filters  
杉山将・今泉大輔・小川英光 ( 東工大 )

7月31日 午前

#### セッション 4

- ・条件付き独立成分分析とナীবベイズ回帰への応用  
赤穂昭太郎 ( 産総研 )
  - ・拡張結合混合モデル  
上田修功 ( NTT )
- 特別セッション「データ・テキストマイニングにおける統計的モデリングの実際」( 1 )
- ・[招待講演] 購買履歴からのデータマイニング  
加藤直樹 ( 京大 )
  - ・Improving an Ecosystem Model Using Earth Science Data  
齊藤和巳 ( NTT )・Pat Langley ( Stanford University )
  - ・教師なしデータからの外れ値フィルタリングルールの発見  
山西健司・竹内純一 ( NEC )

7月31日 午後

#### 特別セッション「データ・テキストマイニングにおける統計的モデリングの実際」( 2 )

- ・ウェブからの情報抽出と最適パターン発見  
坂本比呂志・村上義継・安部潤一郎・有村博紀・有川節夫 ( 九州大学 )
- ・Naive 手法によるテキスト分類問題へのアプローチ  
相澤彰子 ( 情報学研究所 )
- ・統計的学習手法を用いた自由記述アンケートデータからのマイニング  
李航・山西健司 ( NEC )

#### セッション 5

- ・局所錐型モデルの漸近理論とそのニューラルネットへの応用  
福水健次 ( 統数研 )
- ・確率的複雑さと経験過程の関係について  
渡辺澄夫 ( 東工大 )
- ・特異構造を持つ確率モデルにおけるベイズ予測分布の汎化誤差  
甘利俊一・尾関智子・朴慧暎 ( 理研 )

ポスタープレビュー 1

ポスターセッション 1

- ・非加法的統計力学に基づく EM アルゴリズムの定式化

田伏克巳・井上純一 ( 北大 )

- ・濃淡画像の画像修復に対する拘束条件付き最適化を用いた定式化

田中和之 ( 東北大 )

- ・自然勾配流の情報幾何的性質について

藤原靖 ( 東芝 )

- ・特異点を持つ学習モデルの汎化誤差の確率的計算法

山崎啓介・渡辺澄夫 ( 東工大 )

- ・学習における最良予測と知識獲得の非両立性について

西上功一郎・渡辺澄夫 ( 東工大 )

- ・Subspace Information Criterion for Sparse Regressors

津田宏治 ( 産総研 )・杉山将 ( 東工大 )・Klaus-Robert Mueller ( GMD )

- ・Bayes 的 Online 学習: Importance Resampling

中田洋平・栗原貴之・用水邦明・松本隆 ( 早稲田大 )

- ・自己生成ニューラルネットワークを用いたアンサンブル学習

井上浩孝・成久洋之 ( 岡山理科大 )

- ・潜在的因子を含む回帰分析モデルにおける階層型ニューラルネットワークの利用とその意義

浅野美代子 ( 大東文化大 )

- ・クラスタ例からの学習 - クラスタ属性の利用法の改良 (2)

神鳥敏弘・赤穂昭太郎 ( 産総研 )

- ・不確実な事例を利用する語義判別器の学習法

鶴岡慶雅・近山隆 ( 東大 )

- ・代表データを用いたガウス過程回帰法

吉岡琢・大羽成征・石井信 ( 奈良先端大 )

- ・データベースと連携したベイジアンネット構築システム

本村陽一 ( 産総研 )

- ・Bias Planting を用いた拡張 Q-学習

榎田修一・河野宗一・大橋健・江島俊朗 ( 九工大 )

懇親会

8月1日 午前

#### セッション 6

- ・ターボ符号の情報幾何

池田思朗 ( 九工大 & 科技団 )・田中利幸 ( 都立大 )

甘利俊一 ( 理研 )

- ・Learning Bayesian networks from records with missing values

鈴木讓 ( 大阪大 )

ポスタープレビュー 2

#### セッション 7

招待講演 熱力学、統計力学、そして、量子論

田崎晴明 ( 学習院大 )

8月1日 午後

#### ポスターセッション 2

- ・ 平面回転子模型にもとづくライン場および領域場を持つ結合マルコフ確率場モデル  
田中和之・古里大喜・堀口剛(東北大)
- ・ QSO電波束密度時系列から見えてくるもの  
谷塚昇・水原宏司・中岡高博・Mostafizur Rahman Khan(大阪府立大)
- ・ 制御系の解析・設計のための確率的アルゴリズムとその計算量  
大石泰章(東大)
- ・ 複素ニューラルネットワークの学習パラメータの冗長性  
新田徹(産総研)
- ・ 2層ニューラルネットワークのオンライン学習に対する結合切断の効果  
片山克己・堀口剛(東北大)
- ・ Boosting に対する1つの誤解  
吉井裕人(キヤノン)
- ・ ニューラルネットワークの新しいモデリング法とデータマイニング  
小林元・宇谷明秀(武蔵工大)
- ・ 比率成分解析 FCA  
北本朝展(情報学研究所)

- ・ 統計的決定理論に基づく形態素解析方法に関する一考察  
前田康成(NTT東日本)
- ・ 木構造を利用した文書クラスタリング  
川前徳章・青木輝勝・安田浩(東大)
- ・ 情報の要約における確率分布のクラスタリング  
高畠一哉(産総研)
- ・ 強化学習エージェントの状態空間構成問題への情報理論的アプローチ  
矢入健久・堀浩一(東大)
- ・ ベイジアンネットワーク上の確率推論問題への幾何学的アプローチ  
渡辺曜大・今井秀樹(東大)

#### セッション 8

- ・ Properties of Jeffreys Mixture for Markov Sources  
竹内純一(RWCP c/o NEC)・川端勉(電通大)・Andrew Barron(Yale大)
- ・ 特異な事前分布によるベイズ符号  
高橋勇人(総研大)

#### セッション 9

- ・ [招待講演] ユニバーサルデータ圧縮アルゴリズムの変遷 基礎から最新手法まで  
山本博資(東大)

閉会あいさつ

## 国際会議のお知らせ

以下のご案内する内容につきましては、変更になっている場合もありますので、ご自身でのご確認をお願い致します。

#### Globecom2002

日時 2002年11月18日-22日  
場所 Taipei, Taiwan  
URL <http://www.globecom2002.com/>  
原稿 締切終了(TBD)

#### VTC-2002 Fall

日時 2002年11月18日-11月22日  
場所 Vancouver, Canada  
URL <http://www.fallvtc2002.org>  
原稿 締切終了(2002年2月28日)

#### ISSSTA

日時 2002年9月2日-5日  
場所 Prague, Czech Republic  
URL <http://sirius.ure.cas.cz/isssta2002/>  
原稿 締切終了(2002年1月15日)

#### International Symposium on Communica-

#### tion Systems, Networks and Digital Signal Processing

日時 2002年7月15日-17日  
場所 Staffordshire University, UK  
URL <http://www.staffs.ac.uk/csndsp2002/>  
原稿 締切終了(2002年1月25日)

#### INFOCOM

日時 2002年6月23日-27日  
場所 New York, USA  
URL <http://www.ieee-infocom.org/2002/>  
原稿 締切終了(2001年7月31日)

#### VTC-02 Spring

日時 2002年5月5日-9日  
場所 Birmingham, USA  
URL <http://www.ieee.org/vtc02spring>  
原稿 締切終了(2002年9月30日)

### ICC2002

日時 2002年4月28-5月2日  
場所 New York, USA  
URL <http://www.icc2002.com/>  
原稿 締切終了(2002年8月15日)

### WCNC

日時 2002年3月17日-21日  
場所 Orlando, FL  
URL <http://www.wcnc.org/2002/>  
原稿 締切終了(2002年8月1日)

### Globecom 2001

日時 2001年11月25日-29日  
場所 San Antonio, Texas, USA  
URL <http://www.globecom2001.com/>  
原稿 締切終了(2001年3月31日)

### ISPACS

日時 2001年11月20日-23日  
場所 Nashville, Tennessee, USA  
URL <http://cs.tnstate.edu/~ispacs01/>  
原稿 締切終了(2001年5月5日)

### ISCIT

日時 2001年11月14日-16日  
場所 Chiang Mai, Thailand  
URL <http://www.kmitl.ac.th/~iscit/>  
原稿 締切終了(2001年8月15日)

### CDMA International Conference

日時 2001年10月30日-11月2日  
場所 Seoul, Korea  
URL <http://www.kics.or.kr/cic.html>  
原稿 締切終了(2001年7月15日)

### MILCOM

日時 2001年10月22日-24日  
場所 Washington, D.C, USA  
URL <http://www.milcom.org/2001/>  
原稿 締切終了(2002年1月15日)

### VTC-01 Fall

日時 2001年10月7日-11日  
場所 Atlantic City, USA  
URL <http://www.fallvtc2001.org/>  
原稿 締切終了(2001年2月28日)

### PIMRC

日時 2001年9月30日-10月3日  
場所 San Diego, California, USA  
URL <http://www.pimrc2001.org/>  
原稿 締切終了(2001年2月23日)

### Multi-Carrier Spread Spectrum(MC-SS)

日時 2001年9月26日-30日  
場所 Oberpfaffenhofen, Germany  
URL <http://www.dlr.de/KN/KN-S/mcss2001>  
原稿 締切終了(2001年4月30日)

### International OFDM-Workshop

日時 2001年9月18日-19日  
場所 Hamburg Germany  
URL <http://ofdm.tu-harburg.de/>  
原稿 締切終了(2001年6月17日)

### APCC

日時 2001年9月17日-20日  
場所 Tokyo, Japan  
URL <http://www.ieice.org/apcc2001/>  
原稿 締切終了(2001年4月10日)

### WPMC

日時 2001年9月9日-12日  
場所 Aalborg, Denmark  
URL <http://wpmc01.org/>  
原稿 締切終了(2001年4月30日)

### Information Theory Workshop

日時 2001年9月2日-7日  
場所 Cairns, Australia  
URL <http://www.itr.unisa.edu.au/itw2001/>  
原稿 —

## 理事会報告

2001年第1回理事会議題(電気通信大学, 2001.3.3)

1. 2001年度役員(顧問, 評議員, 幹事)について
2. 2000年度第3回理事会議事録の承認
3. 2000年度会計報告
4. 2000年度事業報告(企画関連)
5. 2000年度事業報告(編集関連)
6. SITA2000決算報告, 監査報告



7. ISITA2000 報告
8. 2001 年度予算案
9. 2001 年度事業計画 (企画関連)
10. 2001 年度事業計画 (編集関連)
11. SITA2001 開催計画について
12. ISITA2002 開催について

13. SITA2000 奨励賞について
14. 入退会承認
15. その他  
名簿の作成について  
第 2 回は東大で 7 月に開催予定

## 会員の声

鈴木 徳祥 (株) 豊田中央研究所

素朴な疑問なのですが、S I T A の公式ホームページを作るという動きはないのでしょうか？もちろん、ニューズレター 37 号の会員の声にもありましたように、S I T A 自体がボランティアベースで運営されているため、プロバイダー契約が簡単ではない等の問題があるというのは承知しております。しかしこれだけインターネットが普及した世の中、公式ホームページがあると何かと便利なのではないかと思えます。36号で「残念ながらいまだに公式のホームページを設置していません。」と書いてありますので、あったら良いと思っている人は、私のほかにもいらっしゃるでしょう。

既にある S I T A の企画のページは山口先生が、ニュー

ズレターのページは山里先生が、それぞれお忙しい中、管理していらっしゃるかと思います。これらのページは、やはりあると便利だし、必要だと感じている方が多数いらっしゃるから作られてきたのだと思っています。

すぐに公式ホームページを作るのは難しいとは思いますが、せめて、これら様々な S I T A 関連の情報を取りまとめたメニュー (リンク) が用意されたトップページがあると便利だと思うのですが如何でしょうか？

本格的に公式ホームページを作ろうとすると、ボランティアベースでは作成およびメンテナンスにかかる労力は相当なものであると想像できますので、まずは公式ホームページへの第一歩ということで御一考頂けると嬉しく存じます。

## SITA ニューズレター・ホームページ URL

SITA ニューズレター 37 号から、閲覧用ホームページの URL が

<http://www.ogawa.nuee.nagoya-u.ac.jp/~yamazato/sitanl/>

に変更となりました。22 号～35 号のバックナンバーについては、暫定的に <http://sita-nl.ics.nitech.ac.jp/> で閲覧が可能です。

## 編集後記

ニューズレター第 38 号をお届けします。前任編集理事の岡が今年 4 月より海外留学することになりました。従来の常識に従って日本国内に残っている私が 39 号以降のニューズレター編集の主担当となった訳ですが、インターネットを用いたメールおよびファイル共有により非常に効率化されました。そして、今号のドラフトを書き始めた

とき気付きました。「あれ？、この仕事は世界中何処にいてもできるなあ。」

本学会の IT より今流行の IT の恩恵に浴しています。インフラが変わったら仕事のやり方も変えなくてはならないのかも知れません。

(杉村)

## 編集担当者

岡 育生 (編集理事)

〒 558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138  
大阪市立大学工学部情報工学科  
Tel. 06-6605-2779  
Fax. 06-6690-5382  
Email oka@info.eng.osaka-cu.ac.jp

山里 敬也 (編集幹事)

〒 464-8603 名古屋市千種区不老町  
名古屋大学情報メディア教育センター  
Tel. 052-789-2743  
Fax. 052-789-3173  
E-mail yamazato@nuee.nagoya-u.ac.jp

杉村 立夫 (編集理事)

〒 380-8553 長野市若里 4-17-1  
信州大学工学部電気電子工学科  
Tel. 026-269-5237  
Fax. 026-268-5220  
Email tsugimu@gipwc.shinshu-u.ac.jp

野上 保之 (編集幹事)

〒 700-8530 岡山市津島中 3-1-1  
岡山大学工学部通信ネットワーク工学科  
Tel. 086-251-8128  
Fax. 086-251-8127  
E-mail nogami@cne.okayama-u.ac.jp

情報理論とその応用学会事務局

〒 113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1  
東京大学工学部計数工学科  
数理第3研究室内, 山本博資 気付  
Tel: 03-5841-6930 (直通)  
Fax: 03-5841-8605  
E-mail: sita-office@hy.t.u-tokyo.ac.jp